

平成30年度 横浜市市民活動支援センター（自主事業）中間振り返り

平成30年度 横浜市市民活動支援センター（自主事業）中間振り返り

事業実施団体名
特定非営利活動法人 アクションポート横浜
テーマ・事業名
横浜市市民活動支援センター自主事業部門（補助事業：平成29年度～平成31年度） 【事業名】「地域の若手職員のキャリアを考え、みんなで育つネットワークづくり」
事業概要
NPOの現場から去っていく若者が多く、組織や地域の担い手不足が予想される。また、中間支援組織に求められる役割機能に変化している。このような状況で、若者が地域のNPOの今後を担う存在になるため、自ら課題解決の実践を重ねて成長できるネットワーク基盤を作り、働き方のロールモデルを発信していく。
事業進捗状況
2年目に作成予定だったロールモデルブックは、3年目に作成することとし、2年目はゼミ（中間支援組織に関わる若手職員によるクローズ型検討会）とセミナー（ゼミメンバーに一般NPO職員を加えたゼミオープン型）を集中して行うこととした。 現在、ゼミ4回実施（計画では5回）、セミナー1回（計画では0回）実施。今後、交流会を2回行う予定。 ロールモデルブックには、ゼミやセミナーを行う中で、一緒に何ができるかを考え、参加した人がどのように変化していったかを丁寧に記述していく。
主な意見交換内容
（アクションポート横浜）地域のNPO人材が不足しているという課題意識から事業を行っている。1年目は交流会でのネットワークづくりと人材育成のための課題の論点整理を行い、個人の視点、組織の視点、地域社会の視点が必要だと考えている。 「スナップ」と名付けた人材交流の場を作り、事務局人材やコーディネーターになり得る人材の発掘や、どこで頑張っているのかを知っていく。 人材交流しながら、個人が変容し、その経験と成果を各自の組織に持ち帰るようなものができたらいいと思っている。ロールモデルブックという形では示せない、「場の価値」を示したい。 （委員）若手の勉強会、課題の共有の場をSNAP（スナップ）と名付けたのはいいと思う。人が集まって、折れていた心が他につながって、パチンとはまる、そういった場になるといいと思う。 ゼミや交流会によって、変化の事例はあるか。 （アクションポート横浜）数値で表すのは難しいが、組織の外に出るきっかけとなり、分野の違う人と話すことが面白く、交流することで成長することができる、経験したことを自組織に働きかけることができるようになったという変化の事例はある。 （委員）ロールモデルブックはどういった形になるか。

(アクションポート横浜) ロールモデルを示すことがいいのか、議論しているところだが、ウェブになるか、紙になるかわからないが、成果を示すものを作っていく。

(委員) 具体的な成果に向けて、何を実施しなければならないか考えなければいけない。事業成果をどのような形で創るか、次の人にその成果を提供しなくてはならない。それがこの事業の目的なので、それを認識しておいてほしい。

(アクションポート横浜) 多様な働き方のネットワークを作りたいと思っている。NPOではないが、プロボノ等で参加している自分たちより少し若い世代が、このような場を作りたいと相談に来ている。

(委員) 2年目になり、アイデアが現実的になってはきている。この事業では、今NPOで働いている人たちがどのように心をチェンジして育ち、悩みを解決していくのか、ということもあるが、一方でこの事業に期待されているのは、企業の人材育成と同じくらいのレベルのNPOの人材育成のモデルを作ることだと思う。1つの事例でいいので、3年目には一般化することを目指してほしい。他での事例を参考にしながら、自分たちの研修のモデルを作してほしい。

(委員) 企業の研修はすでに材料があるが、NPOは自分たちで考えて行うところがあり、ビジネスモデルに展開するというには意義がある。他との違いを深めて社会に出して普及することで、オリジナルなものにし、必要とされているところへつなげられることが必要と考える。